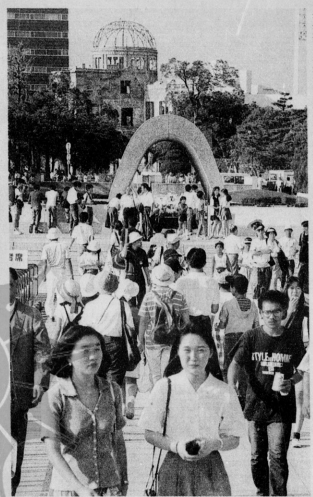
中國新聞
発行所 広島市中区土橋町7番地 郵便番号730
中国新聞社
電話(082)236-2111(代表)(内線)
郵便振替口座 広島0-2番
© 中国新聞社 1992

平和創造願いきょう47周年

広島「原爆の日」

被爆者 多くは還暦超え



人波が絶えない原爆慰霊碑。ヒロシマは被爆47周年の「祈りの日」を迎えた（5日、広島市中の平和記念公園）

あの日から四十七年の歳月が流れた。六日の広島市は、二発目の原爆投下目標とされた「原爆の日」。ヒロシマは、二日、三日と、平和祈念式典や慰霊祭、追悼集会などが相次いで開かれ、五日の「原爆の日」を迎えた。

被爆者の多くは還暦を超えた。一日一日を生きるのに精いっぱいだった戦後の混乱期を乗り越え、平和運動の先頭に立ってきた人たちも、高齢化の波には勝てない。

原爆ドームを見つめながら、「あの日」を思い出す人、「あの日」を知らない人、それぞれの思いを胸に、ヒロシマの夏は過ぎていく。

主な記事

「靖国」首相発言の背景は（3面）
山一証券、最大2000人削減へ（6面）
輸入バッテリーを「日本製」（23面）
◇9面・国際解説「多難のアジア安保」

さわやかな季節の味
菱正宗 生吟醸
広島 久保田酒造㈱ 対面

松本清張氏 死去

82歳

「点と線」…古代史にも視点

「昭和」なの作家

作家の松本清張（まつもと・せいちょう）氏が、4日午前8時59分、東京都内の病院で、肺炎のため死去。82歳。北九州市出身。葬儀は、近親者で行なう。喪主は妻、宮田朝子（みやた・あさこ）さん。

戦後、社会派推理小説の旗手として、数々の作品を発表。「昭和」を代表する作家の一人だった。

自宅は東京都世田谷区松原。

1909年（明治42年）12月21日、福岡県小倉市（現北九州市）に生まれる。

1950年（昭和25年）、「西郷札」で第24回直木賞を受賞。

1953年（昭和28年）、「或る小倉日記伝」で第28回芥川賞を受賞。

1957年（昭和32年）、「点と線」「眼の壁」がベストセラーになり、社会派推理小説の旗手として注目される。

1958年（昭和33年）、「日本の黒い霧」で第8回菊池寛賞を受賞。

1960年（昭和35年）、「昭和史発掘」の連載を開始。

1963年（昭和38年）、「日本推理作家協会」の初代理事長に就任。

1964年（昭和39年）、「日本芸術院」の会員となる。

1970年（昭和45年）、「日本文芸家協会」の理事長に就任。

1971年（昭和46年）、「日本推理作家協会」の会長に就任。

1973年（昭和48年）、「日本芸術院」の会員となる。

1975年（昭和50年）、「日本文芸家協会」の理事長に就任。

1976年（昭和51年）、「日本推理作家協会」の会長に就任。

1977年（昭和52年）、「日本芸術院」の会員となる。

1978年（昭和53年）、「日本文芸家協会」の理事長に就任。

1979年（昭和54年）、「日本推理作家協会」の会長に就任。

1980年（昭和55年）、「日本芸術院」の会員となる。

1981年（昭和56年）、「日本文芸家協会」の理事長に就任。

1982年（昭和57年）、「日本推理作家協会」の会長に就任。

1983年（昭和58年）、「日本芸術院」の会員となる。

1984年（昭和59年）、「日本文芸家協会」の理事長に就任。

1985年（昭和60年）、「日本推理作家協会」の会長に就任。

1986年（昭和61年）、「日本芸術院」の会員となる。

1987年（昭和62年）、「日本文芸家協会」の理事長に就任。

1988年（昭和63年）、「日本推理作家協会」の会長に就任。

1989年（平成元年）、「日本芸術院」の会員となる。

1990年（平成2年）、「日本文芸家協会」の理事長に就任。

1991年（平成3年）、「日本推理作家協会」の会長に就任。

1992年（平成4年）、「日本芸術院」の会員となる。

（6面に関連記事）

ヒルズ通商代表

【ワシントン4日行田共同】米通商代表部（USTR）は四日、日米半導体協定の再延長交渉で、ヒルズ通商代表が「日本政府が調査の「日本政府が調査の市場開放の努力は不十分」と判断、米国企業が公正にアクセスできる市場開放の努力が成果をあげていない」との判断を下したことを明らかにした。

ヒルズ代表は、この判断に基づき、今後、日本に対し、数量目標の設定を含む「結果重視」の厳しい姿勢で交渉に臨む方針を示した。

半導体

「日本の開放不十分」

米通商代表部 追加措置の検討も

【6面に関連記事】

【ニューヨーク4日共同】米通商代表部（USTR）は四日、日米半導体協定の再延長交渉で、ヒルズ通商代表が「日本政府が調査の市場開放の努力は不十分」と判断、米国企業が公正にアクセスできる市場開放の努力が成果をあげていない」との判断を下したことを明らかにした。

ヒルズ代表は、この判断に基づき、今後、日本に対し、数量目標の設定を含む「結果重視」の厳しい姿勢で交渉に臨む方針を示した。

同代表部は、日米半導体協定について、「市場開放の努力は不十分」との判断を下すことで、ヒルズ代表が、日本政府に対し、数量目標の設定を含む「結果重視」の厳しい姿勢で交渉に臨む方針を示した。

ヒルズ代表は、この判断に基づき、今後、日本